

【三】本文について、設問に答えよ。

花山寺におはしまし着きて、御髪おろさせ給ひて後にぞ、粟田殿は、「まかり出でて、大臣にも、変はらぬ姿いま一度見え、かくと案内申して、①必ず参り侍らむ。」と申し給ひければ、「②朕をば謀るなりけり。」とてこそ泣かせ給ひけれ。あはれに悲しきことなりな。日ごろ、よく御弟子にて候はむと契りて、すかし申し給ひけむがおそろしきよ。東三条殿は、もしさることやし給ふとあやふさに、さるべくおとなしき人々、なにがしかがしといふいみじき源氏の武者たちを《X》《Y》、御送りに添へられたりけれ。京のほどは隠れて、堤のわたりより《Y》《Y》うち出で参りける。寺などにては、もし、おして人などやなし奉るとて、一尺ばかりの刀どもを抜きかけてぞ守り申しける。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①御髪 ②案内

問二 傍線部①の現代語訳として、適切なものは次のうちどれか。

- ア 必ず戻って参ります。
- イ 必ず参上して見せます。
- ウ 必死に戻ってきました。
- エ 必ず降参いたします。

問三 傍線部②とあるが、

(1) 誰が、誰を「謀」ったのか。

- ア 花山天皇が粟田殿を
- イ 粟田殿が花山天皇を
- ウ 語り手（大宅世継）が花山天皇を
- エ 語り手（大宅世継）が粟田殿を

(2) 現代語訳しなさい。

(3) 「朕」が「謀」られたことを悟った部分を本文を四十字以内（句読点は字数に含まない）で探して、はじめと終わりの三字を答えよ。

問四 《X》《Y》に入るべき助詞を、Xは二字、Yには一字で答えよ。

問五 本文の出典と、文学ジャンルを答えよ。